

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3910116395		
法人名	医療法人 仁栄会		
事業所名	グループホーム やすらぎ		
所在地	高知県高知市塩田町19番26号		
自己評価作成日	平成30年12月25日	評価結果 市町村受理日	平成31年4月2日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人ひとりに楽しく有意義な日常生活を送ってもらえるよう職員全員が留意し、特に健康管理では協力医である母体法人の病院と24時間365日相談、受診ができる体制を取り、利用者、家族が共に安心して暮らしてもらえるようにしています。平成30年度からは歯科医とも連携し、口腔内の衛生管理にも取り組んでいます。また、利用者の生活機能を少しでも向上させるために、理学療法士からは、毎月の全体会で事業所内で行えるリハビリの指導を受け、利用者一人ひとりに立てたプラン通り行っています。

職員は、内外の研修、勉強会に参加することで知識を深め、不安、不穏を感じている利用者に対しては、その人の立場に立って考え、寄り添い、安心して過ごしてもらえよう、職員間で意見交換をして、対応を検討しています。

本人、家族の思いを大切に考え、日々の生活が本人にとってより良いものになるよう支援しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JkgosvoCd=3910116395-00&amp;ServiceCd=320">http://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JkgosvoCd=3910116395-00&amp;ServiceCd=320</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成31年2月8日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

鉄筋コンクリート5階建ての2階に2ユニットの事業所がある。1階には小規模多機能事業所、3、4階には高齢者住宅があり、災害時には地域住民の福祉避難所としてもらう役割を担っている。車いすで入浴できる広い浴室の使用などを共同で行っており、立地の特性を活かしている。

事業所の利用者は介護度4以上が7割を超え、人工透析患者も多く、母体法人病院とは医療連携体制を整え、24時間365日、相談や受診ができるとともに、毎週看護師の訪問があり、職員は利用者一人ひとりの状態を伝え、必要なときには看護師が医師に相談し、指示をもらったり、受診につがることもある。昨年からは毎月歯科医の訪問診療を受け、一人ひとりの口腔ケアの指導を継続して受けたことで、感染症で入院する利用者も減ってきている。理学療法士による月1回の職員勉強会が行われ、生活の維持向上のためのリハビリテーションとして一人ひとりの目標値を掲げて職員がリハビリに取り組んだ結果、重度の利用者にも効果が表れている。

1階では「しまづカフェ」やイベントを開催し、地域のいいの場となっている。

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名: やすらぎ I

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<b>○理念の共有と実践</b> 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を事業所内に掲示し、職員の名札の裏にも入れて、職員はこれを常に意識し、振り返りを行っている。	開設当初に職員で話し合って作った理念を共有するため、名札の裏に印刷して、いつでも見えるようにしている。毎月の職員全体会で、ケアに理念が活かされるよう話し合いをしている。	
2	(2)	<b>○事業所と地域とのつきあい</b> 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、地域行事に利用者も参加したり、地域に向けて毎月認知症カフェ、「しまづカフェ」を開催している。事業所のある建物は5階建てで、地域の避難ビルとして登録され、地域の防災拠点ともなっている。	地域の一員として町内会に加入し、敬老会への参加や地域の防災訓練に利用者と共に参加し、また町内会の行事にも職員が参加している。小規模多機能型事業所と協力して、認知症カフェ「しまづカフェ」を毎月開催し、地域交流の場づくりをしている。	交流の場として認知症カフェを開催し、地域に情報発信しているが、町内会の回覧板を事業所に回してもらするなど、地域との情報交換が相互にできるようになることを期待したい。
3		<b>○事業所の力を活かした地域貢献</b> 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	母体法人病院の広報誌に毎月の事業所行事や活動報告を掲載し、地域住民の受診時に閲覧したり、持ち帰りができるようにしている。人材育成貢献として実習生の受け入れをし、毎月認知症カフェも開催して、地域に認知症高齢者の理解を深めている。		
4	(3)	<b>○運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、事業報告、活動報告を行ったうえで、参加者から助言や意見をもらい、サービスの向上に努めている。	利用者、家族、地域代表者、行政担当者の参加により質疑応答、参加者からの助言などが行われ、双方向的な会議となっている。外部評価結果は報告し、課題は改善に向けて継続して協議している。詳細に記録した会議録は、家族に送付している。	
5	(4)	<b>○市町村との連携</b> 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の介護保険課、高齢者支援課、生活保護関係で福祉事務所などの職員と情報のやり取りを行い、関係部署と協力している。	介護保険の情報や困難事例などを市担当者に問い合わせたり、市担当者が来訪するなどして、情報交換をしている。市主催の研修会に参加し、研修報告を行って職員間で共有している。	
6	(5)	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が身体拘束をしないケアについて理解し、取り組んでいる。言葉による拘束についても、各職員が毎月自己評価を行い、人権尊重の面で改善に取り組んでいる。	言葉による身体拘束もしないよう、職員一人ひとりが分かりやすいように記録をつけて、全体会で話し合っている。家族の同意を得て夜間離床センサーマットを使用し、転倒予防の対応をする利用者も数人いる。外出傾向のある利用者への見守りなど、一人ひとりに配慮して支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員は研修会に参加することができないため、研修会参加後に報告会を開き、虐待防止に取り組んでいる。利用者の傷や痣を発見したときには記録し、経過についても観察している。日頃からヒヤリハットを共有し、利用者の状態を職員全員で把握するようにしている。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度について、市社会福祉協議会担当者に来てもらい、研修会を行った。必要な利用者には制度活用ができるよう、関係機関につなげるようにしている。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に家族には十分な説明を行い、納得のうえで署名捺印をもらっている。介護保険制度の改定や内容に変更があった際にも、説明のうえ同意を得ている。		
10	(6)	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所入り口に意見箱を設置し、日頃の利用者の言葉や態度の変化を見逃さず、全体会やカンファレンスで話し合っている。家族来訪時には日頃の様子を伝え、要望等が出しやすい雰囲気づくりに努めている。出された要望は、できるだけ早期に改善するようにしている。	面会時、電話などで家族から意見、要望を聞いている。料理メニューなどの利用者の思いや意見は、サービスやケアに活かしている。	
11	(7)	<b>○運営に関する職員意見の反映</b> 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業所内の設備や業務の見直し等、職員の意見や要望等があれば、できる限り改善するように努めている。	事業所運営や職員待遇に関する要望等は、母体法人の介護施設等管理者会議で伝えている。職員からの意見や要望は、毎月の全体会で話し合い、設備や備品、日用品購入等に反映されている。	
12		<b>○就業環境の整備</b> 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の給与水準、労働時間等については徐々に改善されており、資格取得、スキルアップに対しても、積極的に研修参加ができる体制になっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<b>○職員を育てる取り組み</b> 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	母体法人が行う研修会や、外部の研修会に職員が積極的に参加できるようにしている。受講後は報告会を行い、研修参加できなかった職員とも共有できるようにしている。		
14		<b>○同業者との交流を通じた向上</b> 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国単位、県単位の協会に加入している。勉強会や講習会に参加した際には、他の事業所との情報交換をしたり、交流する機会を持つようにして、サービスの向上に活かしている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<b>○初期に築く本人との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時には本人、家族の同意を得たうえで、職員間で情報共有している。入所後、安心して生活を送ってもらえるよう配慮している。		
16		<b>○初期に築く家族等との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	収集した情報をもとに、本人、家族が安心できる関係づくりができるよう心がけている。		
17		<b>○初期対応の見極めと支援</b> サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際に、事業所のできる支援や他のサービスを受けた際のメリット等を説明し、本人に合ったサービス利用の提案をしている。		
18		<b>○本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、利用者一人ひとりの強みを活かし、職員が関わることで共同生活が送れる場所となるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には面会時や電話連絡等で利用者の日々の状態や体調について伝えている。家族の意向を聞き、本人と家族の時間を大切に、共に支えていく関係を築くようにしている。家族関係の問題で相談されるケースもある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、友人の面会の際には、くつろいでもらえるように努めている。家族宅を訪ねたり、入院中の家族のお見舞いに一緒に行ったりしている。	日々のケアの中で利用者の思いや馴染みの場などを把握し、全体会などで情報共有している。職員が同行して、入院している家族の見舞いや自宅周辺を訪ねるなど、馴染みの関係が継続できる支援をしている。家族の協力で馴染みの美容院や外食に出かける利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体調等の関係でマイペースに過ごす利用者もいるが、事業所生活全般がフロアで利用者同士楽しく交流できるよう、職員が関わるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所利用者の家族に病院で会ったり、本人から電話をもらったりすることもある。その後の様子や、生活状況を聞いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、日頃の何気ない会話の中で、利用者一人ひとりの思いや希望などが把握できるよう努めている。把握できたことは申し送り等で職員間で共有し、本人本位に検討している。	職員は、利用者とゆっくり話しをする機会をつくり、言葉で話せない人には仕草等から汲み取って対応している。家を心配する利用者には家まで連れて行く対応をしたり、食事内容等で希望があると、職員間で情報共有して、希望に沿うよう心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族からこれまでの生活歴を聞き、プライバシーに配慮したうえで、入所中でもできるだけこれまでの暮らしが継続していけるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		<b>○暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の心身状態は申し送り表に記載したうえで、朝夕に口頭での申し送りを職員間で行っている。職員は、勤務に入る前に一覧表で確認したり、口頭で確認したり、小さな状況変化も見逃さず、いち早く対応できるようにしている。		
26	(10)	<b>○チームでつくる介護計画とモニタリング</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者一人ひとりに担当職員をつけ、状態の把握に努めている。定期的にモニタリングを行い、心身状態に変化があった際や、職員からの提案等、変更の必要性が生じた際には、介護計画を見直している。	利用者や家族と話し合い、担当職員、歯科医、理学療法士、看護師の情報も入れて介護計画を作成し、全体会で話し合い、家族の同意を得ている。介護計画は6ヶ月毎に、また本人の状態に変化があれば、随時見直しをしている。	
27		<b>○個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の状態把握に努め、一覧表や個別記録に記入し、全体会等で全職員から意見をもらい、情報共有ができるようにして、利用者のよりよい暮らしの実践や、介護計画の見直しに活かしている。		
28		<b>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</b> 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多種多様なニーズに対して、その都度できるだけ柔軟な対応をしている。		
29		<b>○地域資源との協働</b> 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的な地域の行事への参加、外部ボランティアによる歌や踊り、回想紙芝居、楽器の生演奏等を利用者は楽しんでいる。事業所内で訪問理美容サービスの利用も受けている。		
30	(11)	<b>○かかりつけ医の受診支援</b> 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望でほとんどの利用者が協力医をかかりつけ医とし、職員が同行して、日々の状態や心身の変化を主治医に伝えている。必要に応じて、家族に報告もしている。歯科医の定期的な往診も受けている。	協力医をかかりつけ医とする利用者が多く、人工透析者は週3回の透析通院が必要で、母体法人病院の送迎を利用している。専門医への通院は家族に情報提供記録を手渡し、結果は家族に聞いて記録している。歯科医の月1回往診指導による口腔ケアで、感染症による入院が減少した。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<b>○看護職との協働</b> 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携を取っている協力医の担当看護師の定期的な訪問があり、利用者の状態や気づきを伝え、対応してもらっている。異常や気づきのあった際には、昼夜を問わず連絡できる体制が築けている。		
32		<b>○入退院時の医療機関との協働</b> 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	職員は、母体法人が行う研修会や外部の研修に積極的に参加するようにしている。受講後は報告会を行い、資料を閲覧して、参加できなかった職員も共有できるようにしている。		
33	(12)	<b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約締結時に、家族に事業所としてできること、最期まで安心して暮らしてもらえることを説明している。協力医と連携しながら、重度化支援に取り組んでいる。	入所時に重度化対応・看取りの指針を説明している。病状が悪化すると入院、退院の繰り返しとなることが多く、ここ数年の看取り実績は1件となっている。訪問看護師による体調管理や相談、受診の判断など、かかりつけ医と連絡して対応している。	
34		<b>○急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	母体法人で研修会や講習があり、すべての職員が参加している。事業所にAEDを設置し、協力医に24時間365日体制で相談や受診ができる体制ができている。		
35	(13)	<b>○災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練に加え、地震や津波を想定した訓練を定期的に行うようにしている。町内会で行われる防災訓練等にも参加し、参考になったことを持ち帰って報告会を開き、訓練時に実際に披露したこともある。災害時の物品の備蓄もしている。	消防訓練は併設の小規模多機能型事業所と合同で実施している。前年の目標達成計画に基づき地域住民へ呼びかけて民生委員と町内会長の参加があった。非常用備蓄は3日程度、非常用食品を利用して1日3食食べる体験や、毛布を利用した階段搬送などの訓練もしている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	<b>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保</b> 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護のため、居室入室時にはノックし、個人の持ち物に触れる際にも声掛けをして、了解を得ている。排泄誘導時の声掛けにも、周りに分からよう配慮している。	職員は、利用者から丁寧に話を聞くように対応しており、言葉かけにも配慮している。入浴支援は同性で対応するようにし、居室への入室や、利用者の持ち物などに触れるときにも、声をかけて了解を得ている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人ひとりの状態に合わせて、希望や自己決定がしやすい声掛けや、意見を出しやすい関係づくりと支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、利用者一人ひとりの思いや、ペースに合わせた対応を心がけている。散歩を希望する利用者には、同行したりもしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	愛着のある衣服から季節や場面に応じたものを選び、本人の気持ちを優先して身なりを整える支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養バランスの取れたメニューで、一人ひとりに合った食事形態にしている。下ごしらえや後片付け等ができる利用者には、手伝ってもらっている。寿司や牛丼等、希望のものを外注することもあり、利用者の楽しみの一つとなっている。	献立と食材搬入は業者に依頼し、ユニット毎に職員が調理している。下膳を手伝う利用者もいる。利用者の希望に合わせて、寿司や牛丼の外注メニューも利用している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要なカロリーが摂取できるよう工夫している。摂取量が少ない利用者には、栄養補助食品や好みの物を提供するようにしている。水分摂取量にも気配りしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアをしている。毎月歯科医の往診があり、口腔内のチェックを受け、必要な治療やケアの助言を得て、口腔内の清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表で、利用者一人ひとりの尿、便の排泄状態や有無について確認している。排泄パターンを把握し、時間誘導や排泄の仕草を察知しての誘導も行っている。必要な利用者には職員2人で介助でし、トイレでの排泄ができるようにしている。	排泄表で利用者個々の排泄パターンを把握し、適時のトイレ誘導で失敗も少なくなった。リハビリパンツや布パンツになった利用者もいる。一人ひとりに合った対応をしている。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を毎日確認し、食物繊維を用いたり、必要時にはセンナ茶も飲用している。主治医からの指示で便秘薬を使用することもあるが、身体を動かしたりして腸の動きを活発にして、できるだけ自然排便ができるよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の体調や希望で異なるが、平均して週3回は入浴できるようにし、清潔保持に努めている。時間帯は職員の勤務体制に合わせているが、ゆっくり入りたい利用者など、希望には応じている。	人工透析者も多く、清潔保持のため、全員週3回は入浴できるように支援している。脱衣所や浴室、浴槽が広く、車いすのまま浴槽に入る設備もあり、利用者2人と職員2人の4人でもゆったりと入浴できる。一人での入浴希望者には、一人ずつ湯の交換をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	定期的に布団、シーツを交換し、心地よい眠りを支援している。本人の心身状態に合わせて、前夜の不眠・活動状態で日中傾眠傾向のある利用者には臥床を促したり、夜間不安のある利用者には傾聴と見守りをし、体位変換の必要な利用者にも対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者毎に職員の担当制をとっており、薬剤情報で用法・用量や副作用について理解している。処方の変更、追加の際の状態変化にも気づきやすく、主治医への報告もしている。誤薬のないよう、複数の職員で確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりの生活歴、嗜好品、得意なことを知り、楽しみや役割を持ってもらい、気分転換を図りながらその人らしく過ごせるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に沿った外出支援までできていないが、家族と外出することもあり、本人の希望を把握して、職員が希望する場所に一緒に行ったり、近くの堤防に花を見に行ったり、散歩に同行する支援をしている。	車いすを4台載せられる車も利用して、今年には利用者全員が初詣に出かけたり、近くの公園に花見に行ったりしているが、一人ひとりの希望に沿った美容院や食事などの外出は、専ら家族に頼っている。通院介助としての外出が多くなっている。	少人数での散歩や買い物など、利用者の気分転換や楽しみにつながる外出支援は少なくなっており、可能な範囲で一人ひとりの希望に沿った外出支援が増やせる工夫を期待したい。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<b>○お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と話し合い小額を本人が持っている利用者もあり、外出時に買い物している。ほとんどの利用者は事業所での金銭管理で、必要な物や希望する物を購入している。		
51		<b>○電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している利用者もいる。かかってきた電話を取り次いだり、希望があるときかけたり、その都度職員が対応している。		
52	(19)	<b>○居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は季節感を感じてもらえるよう壁飾りで演出し、テレビは観やすい位置の壁にかけたり、車いすが通りやすいように配慮している。空調の温度調整にも心がけている。	居間と食堂は共用で、テーブルやテレビ、ソファ、本棚などは適度の距離を置いて配置し、車いす移動にゆとりを作っている。季節の生け花や折り紙などの作品を飾り、季節感を出している。共用トイレや浴室は、清潔さが保たれている。	
53		<b>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b> 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にはソファやベンチを置き、利用者が自由に過ごせる場所がある。フロアのテーブルでは気の合った利用者同士でトランプを楽しんだり、一緒にテレビを観たり、作業をしたりして、利用者は思い思いに過ごしている。		
54	(20)	<b>○居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時には、使い慣れた思い入れのある物や、家具を持ち込むようお願いしている。配置についても、本人、家族と相談しながら、使いやすい、居心地のよい空間作りを工夫している。	居室の壁や床に木目材が使われ、落ち着いた雰囲気がある。部屋にはテレビや使い馴染んだ椅子やタンス、家族写真などが置かれ、自宅の雰囲気を出している。入り口には、地震によって倒れそうな家具の配置はしていない。	
55		<b>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	事業所内はバリアフリーで、手すりを設置している。居室の入り口には表札をかけ、ドアが同じで分かりにくいのでリボン等で目印をつけたり、トイレの表示もしている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名: やすらぎⅡ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<b>○理念の共有と実践</b> 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を事業所内に掲示し、職員の名札の裏にも入れて、職員はこれを常に意識し、振り返りを行っている。		
2	(2)	<b>○事業所と地域とのつきあい</b> 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、地域行事に利用者も参加したり、地域に向けて毎月認知症カフェ、「しまづカフェ」を開催している。事業所のある建物は5階建てで、地域の避難ビルとして登録され、地域の防災拠点ともなっている。		
3		<b>○事業所の力を活かした地域貢献</b> 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	母体法人病院の広報誌に毎月の事業所行事や活動報告を掲載し、地域住民の受診時に閲覧したり、持ち帰りができるようにしている。人材育成貢献として実習生の受け入れをし、毎月認知症カフェも開催して、地域に認知症高齢者の理解を深めている。		
4	(3)	<b>○運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、事業報告、活動報告を行ったうえで、参加者から助言や意見をもらい、サービスの向上に努めている。		
5	(4)	<b>○市町村との連携</b> 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の介護保険課、高齢者支援課、生活保護関係で福祉事務所などの職員と情報のやり取りを行い、関係部署と協力している。		
6	(5)	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が身体拘束をしないケアについて理解し、取り組んでいる。言葉による拘束についても、各職員が毎月自己評価を行い、人権尊重の面で改善に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員は研修会に参加することができないため、研修会参加後に報告会を開き、虐待防止に取り組んでいる。利用者の傷や痣を発見したときには記録し、経過についても観察している。日頃からヒヤリハットを共有し、利用者の状態を職員全員で把握するようにしている。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度について、市社会福祉協議会担当者に来てもらい、研修会を行った。必要な利用者には制度活用ができるよう、関係機関につなげるようにしている。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に家族には十分な説明を行い、納得のうえで署名捺印をもらっている。介護保険制度の改定や内容に変更があった際にも、説明のうえ同意を得ている。		
10	(6)	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所入り口に意見箱を設置し、日頃の利用者の言葉や態度の変化を見逃さず、全体会やカンファレンスで話し合っている。家族来訪時には日頃の様子を伝え、要望等が出しやすい雰囲気づくりに努めている。出された要望は、できるだけ早期に改善するようにしている。		
11	(7)	<b>○運営に関する職員意見の反映</b> 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業所内の設備や業務の見直し等、職員の意見や要望等があれば、できる限り改善するように努めている。		
12		<b>○就業環境の整備</b> 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の給与水準、労働時間等については徐々に改善されており、資格取得、スキルアップに対しても、積極的に研修参加ができる体制になっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<b>○職員を育てる取り組み</b> 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	母体法人が行う研修会や、外部の研修会に職員が積極的に参加できるようにしている。受講後は報告会を行い、研修参加できなかった職員とも共有できるようにしている。		
14		<b>○同業者との交流を通じた向上</b> 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国単位、県単位の協会に加入している。勉強会や講習会に参加した際には、他の事業所との情報交換をしたり、交流する機会を持つようにして、サービスの向上に活かしている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<b>○初期に築く本人との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時には本人、家族の同意を得たうえで、職員間で情報共有している。入所後、安心して生活を送ってもらえるよう配慮している。		
16		<b>○初期に築く家族等との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	収集した情報をもとに、本人、家族が安心できる関係づくりができるよう心がけている。		
17		<b>○初期対応の見極めと支援</b> サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際に、事業所でできる支援や他のサービスを受けた際のメリット等を説明し、本人に合ったサービス利用の提案をしている。		
18		<b>○本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、利用者一人ひとりの強みを活かし、職員が関わることで共同生活が送れる場所となるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には面会時や電話連絡等で利用者の日々の状態や体調について伝えている。家族の意向を聞き、本人と家族の時間を大切に、共に支えていく関係を築くようにしている。家族関係の問題で相談されるケースもある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、友人の面会の際には、くつろいでもらえるように努めている。家族宅を訪ねたり、入院中の家族のお見舞いに一緒に行ったりもしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体調等の関係でマイペースに過ごす利用者もいるが、事業所生活全般がフロアで利用者同士楽しく交流できるよう、職員が関わるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所利用者の家族に病院で会ったり、本人から電話をもらったりすることもある。その後の様子や、生活状況を聞いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、日頃の何気ない会話の中で、利用者一人ひとりの思いや希望などが把握できるよう努めている。把握できたことは申し送り等で職員間で共有し、本人本位に検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族からこれまでの生活歴を聞き、プライバシーに配慮したうえで、入所中でもできるだけこれまでの暮らしが継続していけるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		<b>○暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の心身状態は申し送り表に記載したうえで、朝夕に口頭での申し送りを職員間で行っている。職員は、勤務に入る前に一覧表で確認したり、口頭で確認したり、小さな状況変化も見逃さず、いち早く対応できるようにしている。		
26	(10)	<b>○チームでつくる介護計画とモニタリング</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者一人ひとりに担当職員をつけ、状態の把握に努めている。定期的にモニタリングを行い、心身状態に変化があった際や、職員からの提案等、変更の必要性が生じた際には、介護計画を見直している。		
27		<b>○個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の状態把握に努め、一覧表や個別記録に記入し、全体会等で全職員から意見をもらい、情報共有ができるようにして、利用者のよりよい暮らしの実践や、介護計画の見直しに活かしている。		
28		<b>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</b> 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多種多様なニーズに対して、その都度できるだけ柔軟な対応をしている。		
29		<b>○地域資源との協働</b> 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的な地域の行事への参加、外部ボランティアによる歌や踊り、回想紙芝居、楽器の生演奏等を利用者は楽しんでいる。事業所内で訪問理美容サービスの利用も受けている。		
30	(11)	<b>○かかりつけ医の受診支援</b> 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望でほとんどの利用者が協力医をかかりつけ医とし、職員が同行して、日々の状態や心身の変化を主治医に伝えている。必要に応じて、家族に報告もしている。歯科医の定期的な往診も受けている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<b>○看護職との協働</b> 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携を取っている協力医の担当看護師の定期的な訪問があり、利用者の状態や気づきを伝え、対応してもらっている。異常や気づきのあった際には、昼夜を問わず連絡できる体制が築けている。		
32		<b>○入退院時の医療機関との協働</b> 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	職員は、母体法人が行う研修会や外部の研修に積極的に参加するようにしている。受講後は報告会を行い、資料を閲覧して、参加できなかった職員も共有できるようにしている。		
33	(12)	<b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約締結時に、家族に事業所としてできること、最期まで安心して暮らしてもらえることを説明している。協力医と連携しながら、重度化支援に取り組んでいる。		
34		<b>○急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	母体法人で研修会や講習があり、すべての職員が参加している。事業所にAEDを設置し、協力医に24時間365日体制で相談や受診ができる体制ができている。		
35	(13)	<b>○災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練に加え、地震や津波を想定した訓練を定期的に行うようにしている。町内会で行われる防災訓練等にも参加し、参考になったことを持ち帰って報告会を開き、訓練時に実際に披露したこともある。災害時の物品の備蓄もしている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	<b>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保</b> 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護のため、居室入室時にはノックし、個人の持ち物に触れる際にも声掛けをして、了解を得ている。排泄誘導時の声掛けにも、周りに分からよう配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		<b>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</b> 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人ひとりの状態に合わせ、希望や自己決定がしやすい声掛けや、意見を出しやすい関係づくりと支援に努めている。		
38		<b>○日々のその人らしい暮らし</b> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、利用者一人ひとりの思いや、ペースに合わせた対応を心がけている。散歩を希望する利用者には、同行したりもしている。		
39		<b>○身だしなみやおしゃれの支援</b> その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	愛着のある衣服から季節や場面に応じたものを選び、本人の気持ちを優先して身なりを整える支援をしている。		
40	(15)	<b>○食事を楽しむことのできる支援</b> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養バランスの取れたメニューで、一人ひとりに合った食事形態にしている。下ごしらえや後片付け等ができる利用者には、手伝ってもらっている。寿司や牛丼等、希望のものを外注することもあり、利用者の楽しみの一つとなっている。		
41		<b>○栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要なカロリーが摂取できるよう工夫している。摂取量が少ない利用者には、栄養補助食品や好みの物を提供するようにしている。水分摂取量にも気配りしている。		
42		<b>○口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアをしている。毎月歯科医の往診があり、口腔内のチェックを受け、必要な治療やケアの助言を得て、口腔内の清潔保持に努めている。		
43	(16)	<b>○排泄の自立支援</b> 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表で、利用者一人ひとりの尿、便の排泄状態や有無について確認している。排泄パターンを把握し、時間誘導や排泄の仕草を察知しての誘導も行っている。必要な利用者には職員2人で介助でし、トイレでの排泄ができるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		<b>○便秘の予防と対応</b> 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を毎日確認し、食物繊維を用いたり、必要時にはセンナ茶も飲用している。主治医からの指示で便秘薬を使用することもあるが、身体を動かしたりして腸の動きを活発にして、できるだけ自然排便ができるよう努めている。		
45	(17)	<b>○入浴を楽しむことができる支援</b> 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の体調や希望で異なるが、平均して週3回は入浴できるようにし、清潔保持に努めている。時間帯は職員の勤務体制に合わせているが、ゆっくり入りたい利用者など、希望には応じている。		
46		<b>○安眠や休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	定期的に布団、シーツを交換し、心地よい眠りを支援している。本人の心身状態に合わせて、前夜の不眠・活動状態で日中傾眠傾向のある利用者には臥床を促したり、夜間不安のある利用者には傾聴と見守りをし、体位変換の必要な利用者にも対応している。		
47		<b>○服薬支援</b> 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者毎に職員の担当制をとっており、薬剤情報で用法・用量や副作用について理解している。処方の変更、追加の際の状態変化にも気づきやすく、主治医への報告もしている。誤薬のないよう、複数の職員で確認している。		
48		<b>○役割、楽しみごとの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりの生活歴、嗜好品、得意なことを知り、楽しみや役割を持ってもらい、気分転換を図りながらその人らしく過ごせるよう支援している。		
49	(18)	<b>○日常的な外出支援</b> 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に沿った外出支援まではできていないが、家族と外出することもあり、本人の希望を把握して、職員が希望する場所に一緒に行ったり、近くの堤防に花を見に行ったり、散歩に同行する支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<b>○お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と話し合い小額を本人が持っている利用者もあり、外出時に買い物している。ほとんどの利用者は事業所での金銭管理で、必要な物や希望する物を購入している。		
51		<b>○電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している利用者もいる。かかってきた電話を取り次いだり、希望があるときかけたり、その都度職員が対応している。		
52	(19)	<b>○居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は季節感を感じてもらえるよう壁飾りで演出し、テレビは観やすい位置の壁にかけたり、車いすが通りやすいように配慮している。空調の温度調整にも心がけている。		
53		<b>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b> 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にはソファやベンチを置き、利用者が自由に過ごせる場所がある。フロアのテーブルでは気の合った利用者同士でトランプを楽しんだり、一緒にテレビを観たり、作業をしたりして、利用者は思い思いに過ごしている。		
54	(20)	<b>○居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時には、使い慣れた思い入れのある物や、家具を持ち込むようお願いしている。配置についても、本人、家族と相談しながら、使いやすく、居心地のよい空間作りを工夫している。		
55		<b>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	事業所内はバリアフリーで、手すりを設置している。居室の入り口には表札をかけ、ドアが同じで分かりにくいのでリボン等で目印をつけたり、トイレの表示もしている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない